



トマト・ミニトマト編



病害虫注意報
2017年6月作成

※農薬の使用はラベルの記載に従ってください。

栽培終了時の残渣処理特集

ハウス外に出た害虫は露地で繁殖して再び次作で飛来・侵入してきてしまいます！

コナジラミを外に出さないためには・・・

①ハウスを1～2週間締切、ハウス内の温度を50℃以上に上げて蒸し込む

※温度を上げ過ぎると塩ビ管の糊が溶けたり、資材が変形する恐れがあります。

②有効薬剤を散布し、虫を死滅させた後に残渣を外へ出す

※持ち出し前のおすすめ薬剤：ベストガード水溶剤 (1,000～2,000倍 前日/3回)

アルバリン顆粒水溶剤 (2,000～3,000倍 前日/2回)

コルト顆粒水和剤 (4,000倍 前日/3回)



おすすめ資材
総合土壌くん蒸剤
キルパー

古株枯死・コナジラミ蔓延防止！

使用量：原液として40～60L/10a 使用回数：1回

使用時期：前作終了後からは種又は定植の15日前まで

使用方法：予め被覆した内で、所定量の薬液を水で希釈し
土壌表面に散布または灌水する。



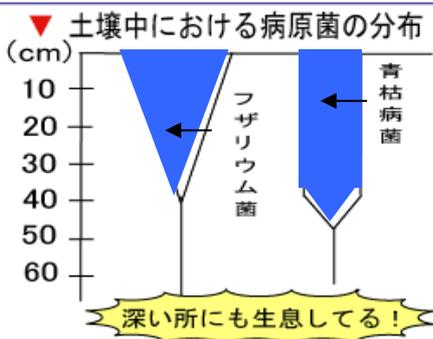
土壌消毒のポイント

バスアミド微粒剤、クロールピクリン剤の効果的な使い方

①砕土を丁寧に行う・・・固まっている土の内部は消毒されません！

②被覆を必ず行う・・・被覆を行わないと薬剤が抜けやすくなり、ガスが
下方で移行しないので表層しか消毒できません！

土壌深度 (cm)



太陽熱を利用しましょう！

病原菌は熱に弱いものが多いので、梅雨明後の太陽熱処理が効果的です。

◆ 病原菌死滅温度 ◆

フザリウム菌	55℃	40分
青枯病菌	52℃	10分
白絹病菌	49℃	10分

《適期》

- 7/20～8/20の1ヶ月間
- バスアミド微粒剤の場合には石灰窒素100kgを併用すると効果UP！

愛知県農業企業 初！

計量事業所登録を取得しています

土壌分析してみませんか？

土質・作物の状態によって、作後の土壌に残る養分は異なります。毎作同じ施肥を繰り返していると、特定の養分が不足したり蓄積したりし、土壌の養分バランスが崩れてしまいます。

土壌の化学性を分析し、
結果に基づいた施肥設計を行いましょう！



※詳しくは営業担当にお問い合わせ下さい

被覆資材で効率UP！

バリアースターV

がバリア性の高い被覆資材を使うことで、薬剤の効率UP！

～特徴～

- ・農薬の使用量を減らします
- ・農薬の臭いを抑えます
- ・農薬代を抑え、経済的に消毒できます

★詳しくは営業担当まで
お問い合わせ下さい



※メーカー資料より